

令和 2 年度

市政モニターアンケート調査結果
【 広報戦略について 】



長 崎 市
広報戦略室

1. 調査の目的

市民との良好なコミュニケーションを形成し、市民と一緒にまちづくりを進めていくために広報の重要性が増しています。

長崎市では、令和2年3月に策定した広報戦略に基づき、重点的広報テーマとして、市民のくらしを便利で豊かにする情報をお届けする「くらしプロモーション」と、長崎市のまちの進化や魅力などを市の内外に発信する「シティプロモーション」に取り組むなど、戦略的・効果的な広報をめざしています。

今回は、広報戦略に関わる項目について調査を行い、取組みの成果検証に活かすことを目的に調査を行いました。

2. 調査の概要

調査期間：令和2年12月7日 ～ 令和2年12月21日

送付数：229人（郵送モニター 182人 インターネットモニター 47人）

回答率：78.6%（180人）

（郵送回答 166人 インターネット回答 14人）

3. 調査結果

今回の調査結果から、「過去1年間に市役所から情報を入手しようとしたことがあるか」、その際に「入手しようとした情報はどんなものか」、その結果「必要な情報を入手することができたか」について確認することができました。また、市民が抱いている「長崎市に対するイメージ」について、その傾向を確認できました。

情報の入手状況については、「過去1年間に市役所から情報を入手しようとしたこと」が「ある」と回答したかたが約58%でした。どのような情報を入手しようとしたかについては、「生活に関すること」が約70%、「防災・消防に関すること」が約32%、「福祉・健康に関すること」「子育て・学びに関すること」が25%前後となっており、生活に身近な情報や安全・安心に関する情報に関心が高いことがうかがえます。このうち、必要な情報が「入手できた」または「どちらかといえばできた」かたの割合は約88%であり、情報を入手しようとしたかたのうち、ほぼすべてのかたがある程度の必要な情報を入手できたという結果となっています。

一方で、「過去1年間で市役所から情報を入手したこと」が「ない」かたの割合は約42%に上り、その理由の約79%が「必要性がないから」という結果になりました。

これらを踏まえ、部署間で連携しながらニーズの把握に努め、市民が必要とする情報を適切なタイミングで、正確にわかりやすく発信するとともに、市役所からの情報に必要性を感じていないかたにも、くらしに有益な情報などを届けることができるよう、興味・関心を持っていただけるような情報の編集に努め、発信方法についても、既存広報媒体の見直しや新たな広報媒体の活用等の検討を進めてまいります。

市民が持っている「長崎市に対するイメージ」については、「歴史・文化のまち」（約 86%）、「観光・レジャーのまち」（約 63%）、「国際交流のまち」（約 30%）、「農林水産業が盛んなまち」（約 23%）、「災害リスクが小さいまち」（約 20%）が上位となりました。

「長崎市に対するイメージ」について、この1年間で変化があったかたは、約 25%となっており、このうち、新たにイメージを持ったかたが増えた項目（「変化がある」と答えたかたのうち、「新たにイメージを持った」かたと、「イメージがなくなった」かたの差）は、「スポーツのまち」「健康増進・医療福祉のまち」が最も増え、「歴史・文化のまち」、「環境にやさしいまち」が続き、増加した項目の上位を占めています。一方で、「住民参加のまち」「地場産業が盛んなまち」はイメージが減少した項目の上位となりました。

これらのイメージを持つ割合が高まることは、市民のまちへの愛着の深まりや、暮らしやすさ、まちの魅力の向上などにつながるものであることから、長崎市のまちづくりの情報やくらしに役立つ情報、まちの魅力、民間事業者の取り組みなどが分かりやすく伝わるよう、効果的な情報発信に取り組んでいきます。

4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

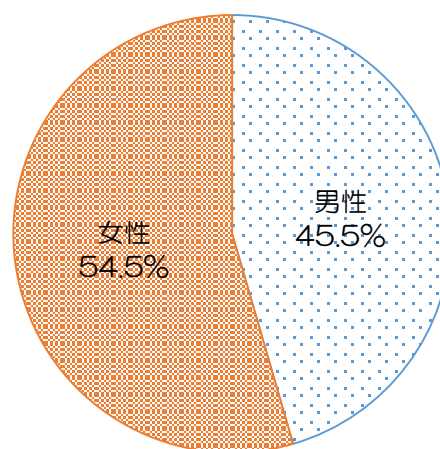
また、複数回答可とした設問においては、合計が100パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	81人	45.5%
女性	97人	54.5%
合計	178人	100.0%

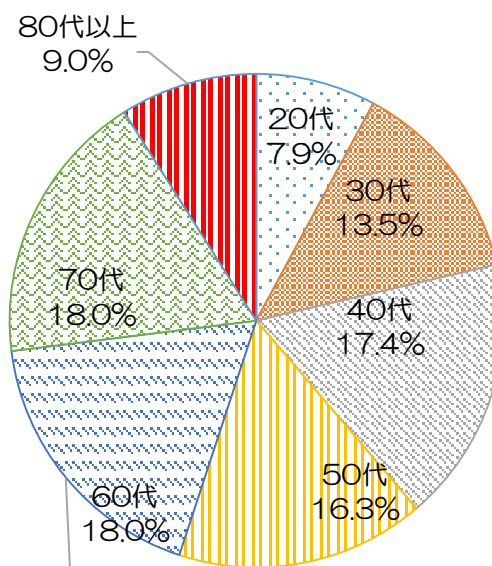
(無回答：2人)



問2 あなたの年齢を選択してください。

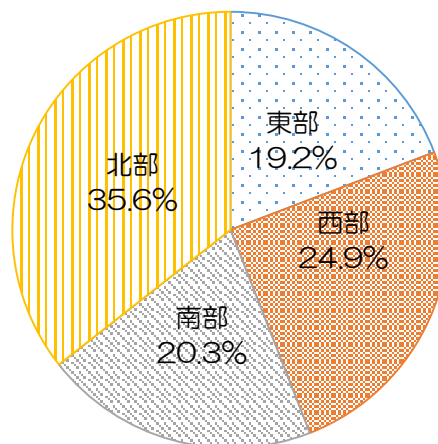
選択肢	回答者数	割合
20代	14人	7.9%
30代	24人	13.5%
40代	31人	17.4%
50代	29人	16.3%
60代	32人	18.0%
70代	32人	18.0%
80代以上	16人	9.0%
合計	178人	100%

(無回答：2人)



問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	34人	19.2%
西部	44人	24.9%
南部	36人	20.3%
北部	63人	35.6%
合計	177人	100.0%



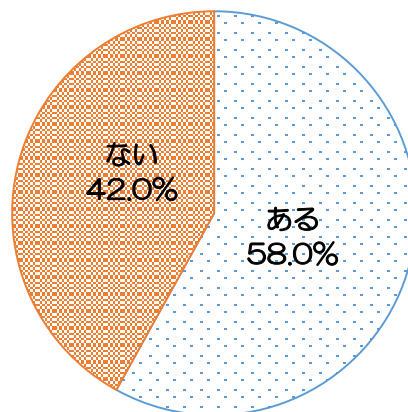
(無回答：2人、無効回答：1人)

※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問9 過去1年間に市役所からの情報を入手しようとしたことがありますか。
(当てはまるもの1つ回答)

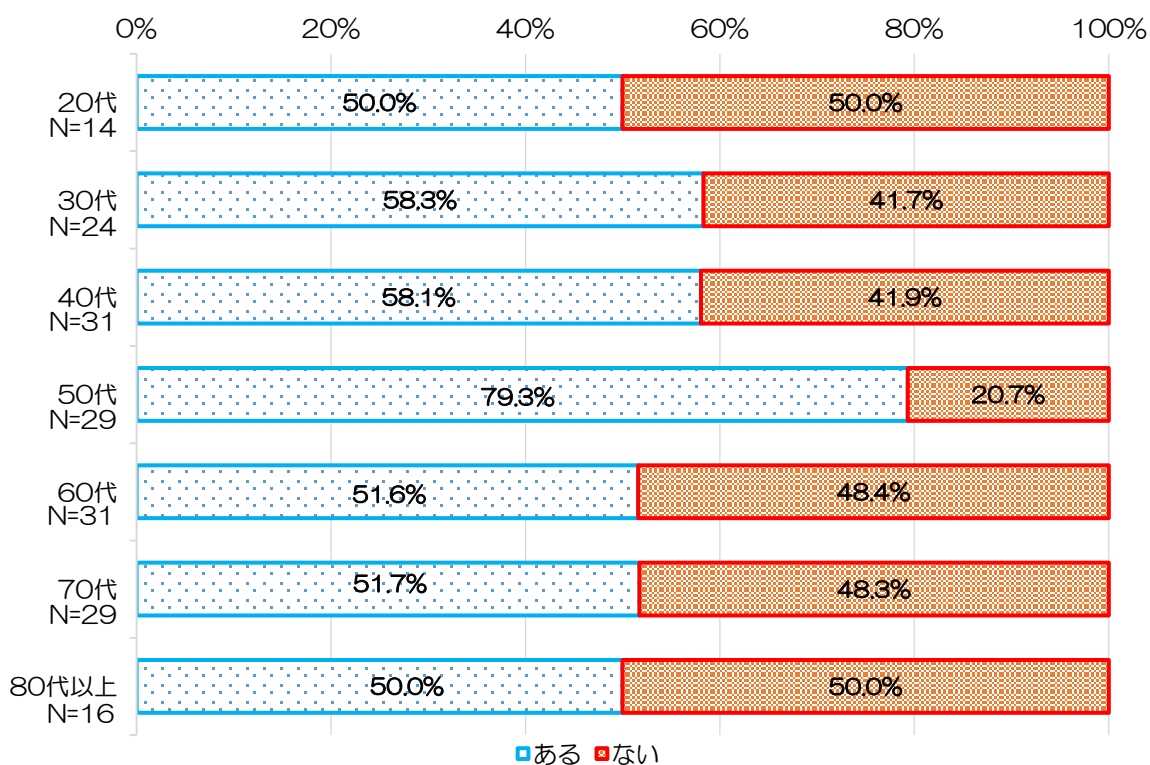
選択肢	回答者数	割合
ある	101人	58.0%
ない	73人	42.0%
合計	174人	100.0%

(無回答：6人)



〈年齢別割合〉

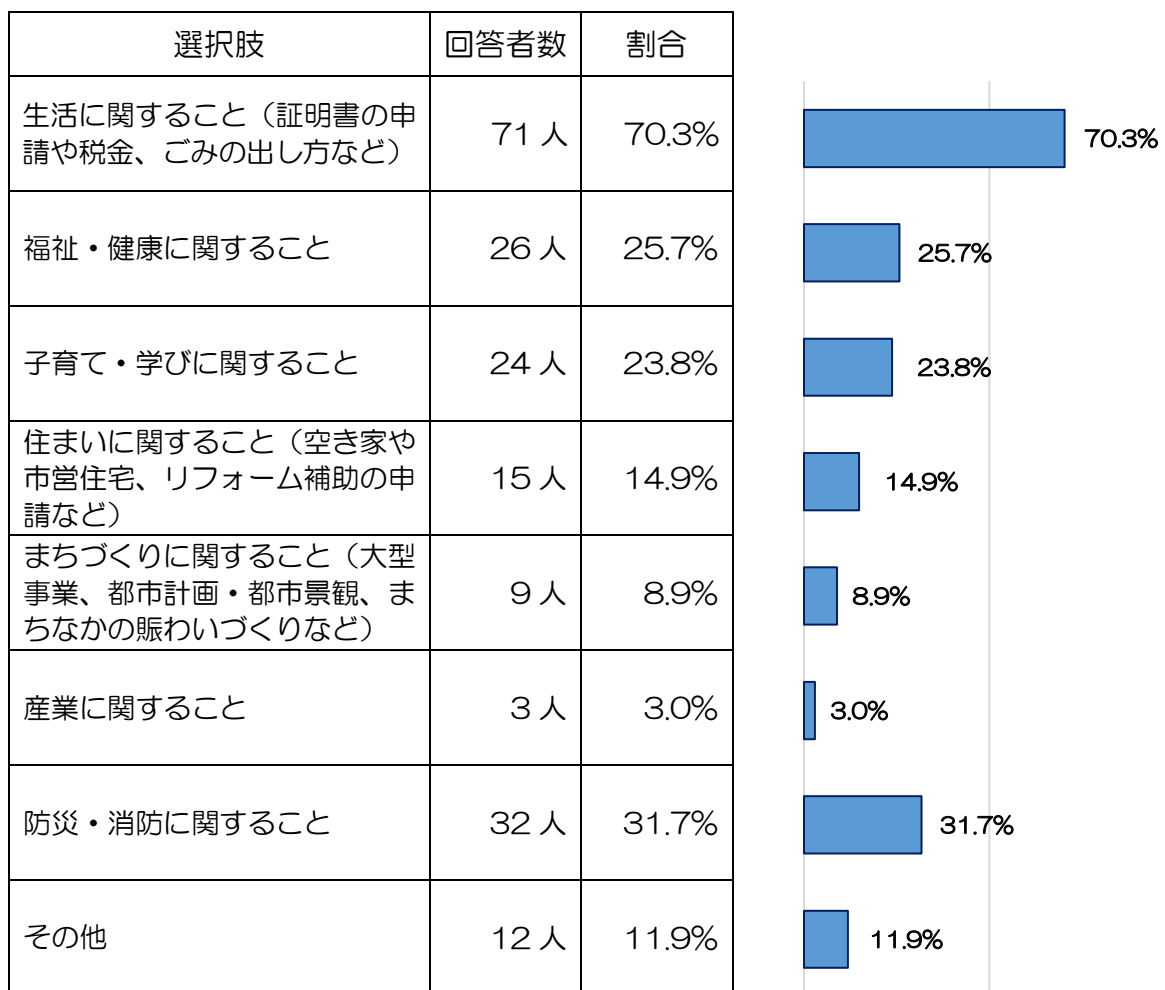
(単位：%)



過去1年間で市役所からの情報を入手しようとしたことが「ある」かたは、約58%となりました。年齢別で見ると概ね50%から60%程度となっていますが、50代の割合が特に高く、約79%となっています。

問 10 問 9 で「1.ある」と答えた方にお尋ねします。

入手しようとした情報はどのような情報ですか。(複数回答可)



(回答者数：101人 有効回答数：192)

※「その他」の意見

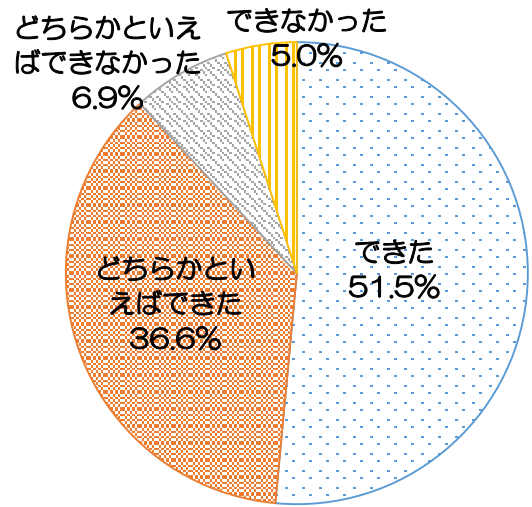
- 新型コロナウイルスについて
- マイナンバーカードについて
- 地元で使おう商品券について
- 認知症の発症について など

生活に特に関わりが深い、証明書の交付や税金、ごみの出し方などの「生活に関すること」が約70%、「防災・消防に関すること」が約32%、「福祉・健康に関すること」「子育て・学びに関すること」が約25%前後となっており、生活に身近な情報や安全・安心に関する情報に関心が高いことがうかがえます。

また、その他として、新型コロナウイルスに関する情報もあがっています。

問 11 問9で「1.ある」と答えた方にお尋ねします。必要な情報は入手できましたか。(当てはまるもの1つ回答)

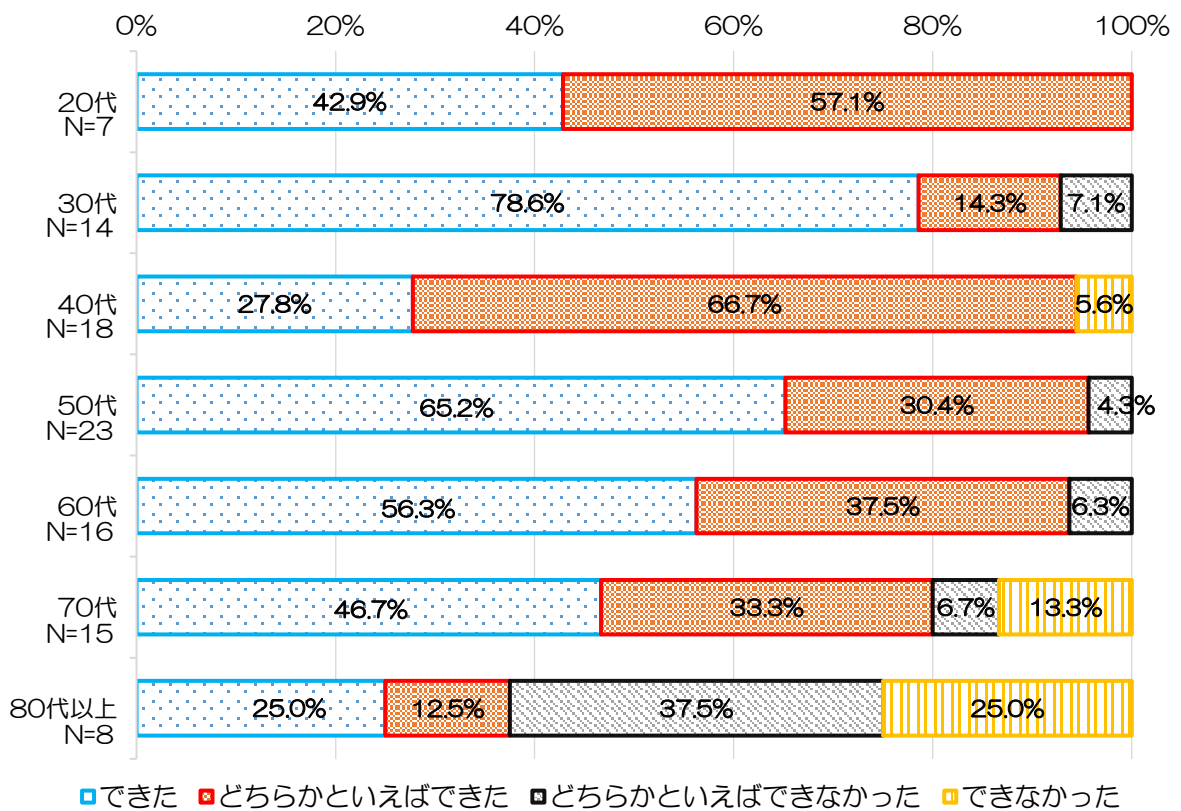
選択肢	回答者数	割合
できた	52人	51.5%
どちらかといえ ばできた	37人	36.6%
どちらかといえ ばできなかった	7人	6.9%
できなかった	5人	5.0%
合計	101人	100.0%



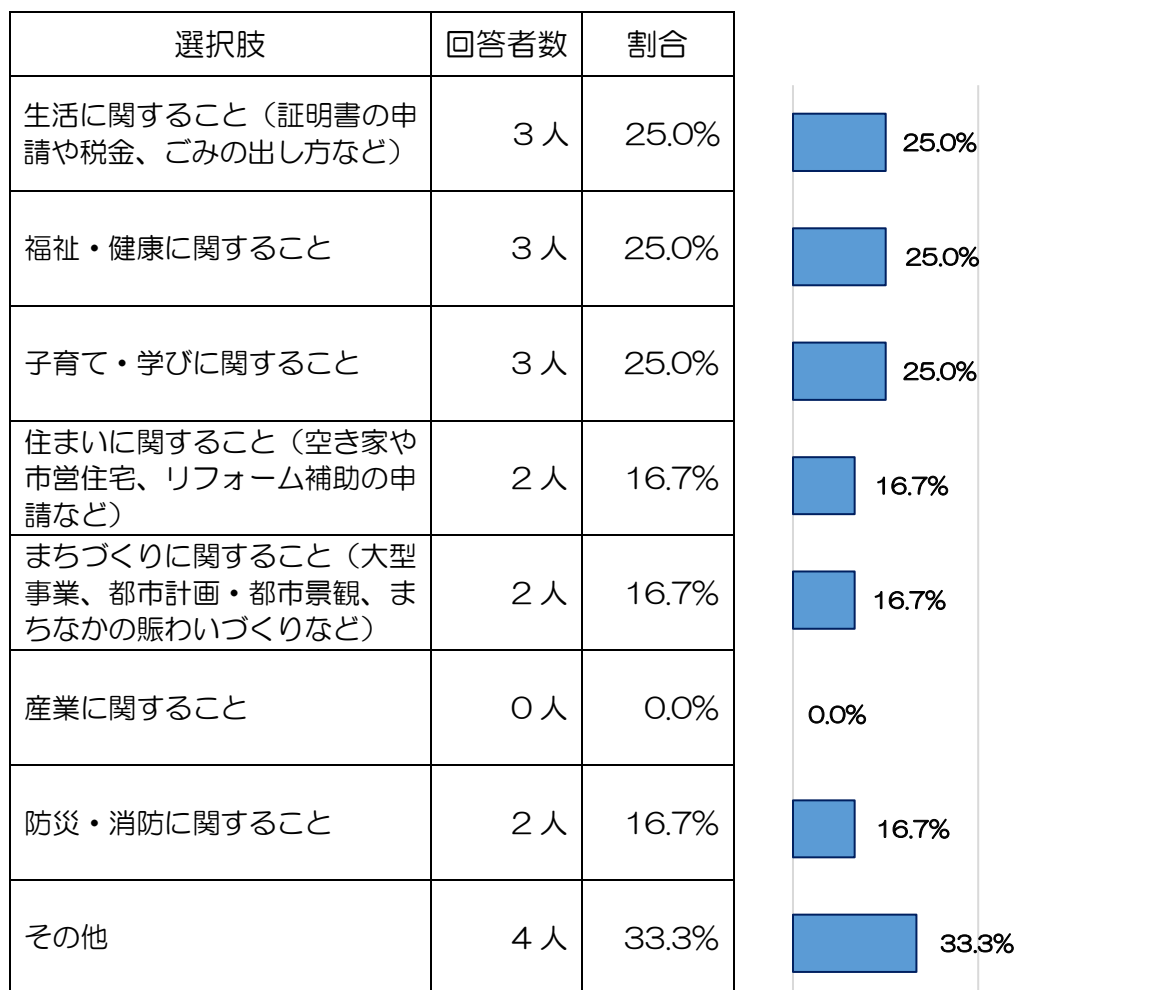
(無回答：なし)

〈年齢別割合〉

(単位：%)



【参考】問 11 で「どちらかといえはできなかつた」「できなかつた」と答えた方が入手しようとした情報について



（回答者数：12人 有効回答数：19）

※「その他」の意見

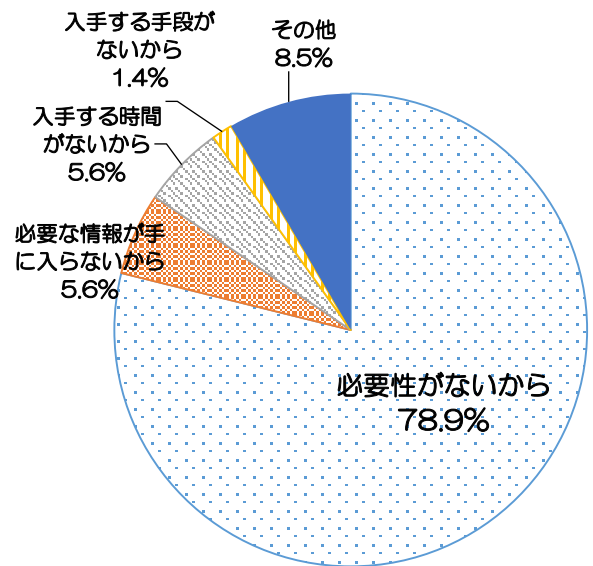
- ・マイナンバーカードについて
- ・リフトの運用点検日時間について など

必要な情報が「入手できた」または「どちらかといえはできた」かたの割合は約 88%であり、情報を入手しようとしたかたのうち、ほぼすべてのかたがある程度の必要な情報を入手できたという結果となっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて「どちらかといえはできなかつた」「できなかつた」かたの割合が増えており、20代では0%だったのに対し、80代以上では約 63%に達しています。年齢が高いかたが求める情報に関するニーズの把握や、情報を入手しやすい環境づくりなどを検討する必要があります。

問 12 問9で「2.ない」と答えた方にお尋ねします。市役所から情報を入手しようとしたことがない理由は何ですか。（当てはまるもの1つ回答）

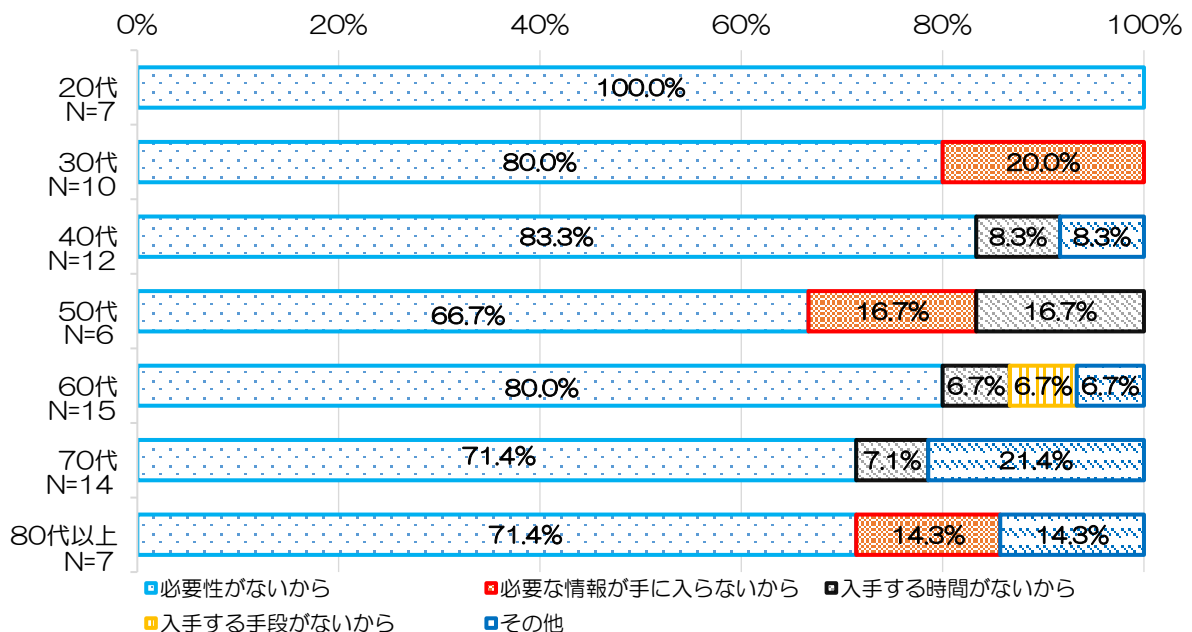
選択肢	回答者数	割合
必要性がないから	56人	78.9%
必要な情報が手に入らないから	4人	5.6%
入手する時間がないから	4人	5.6%
入手する手段がないから	1人	1.4%
その他	6人	8.5%
合計	71人	100.0%



（無回答：1人 無効回答：1人）

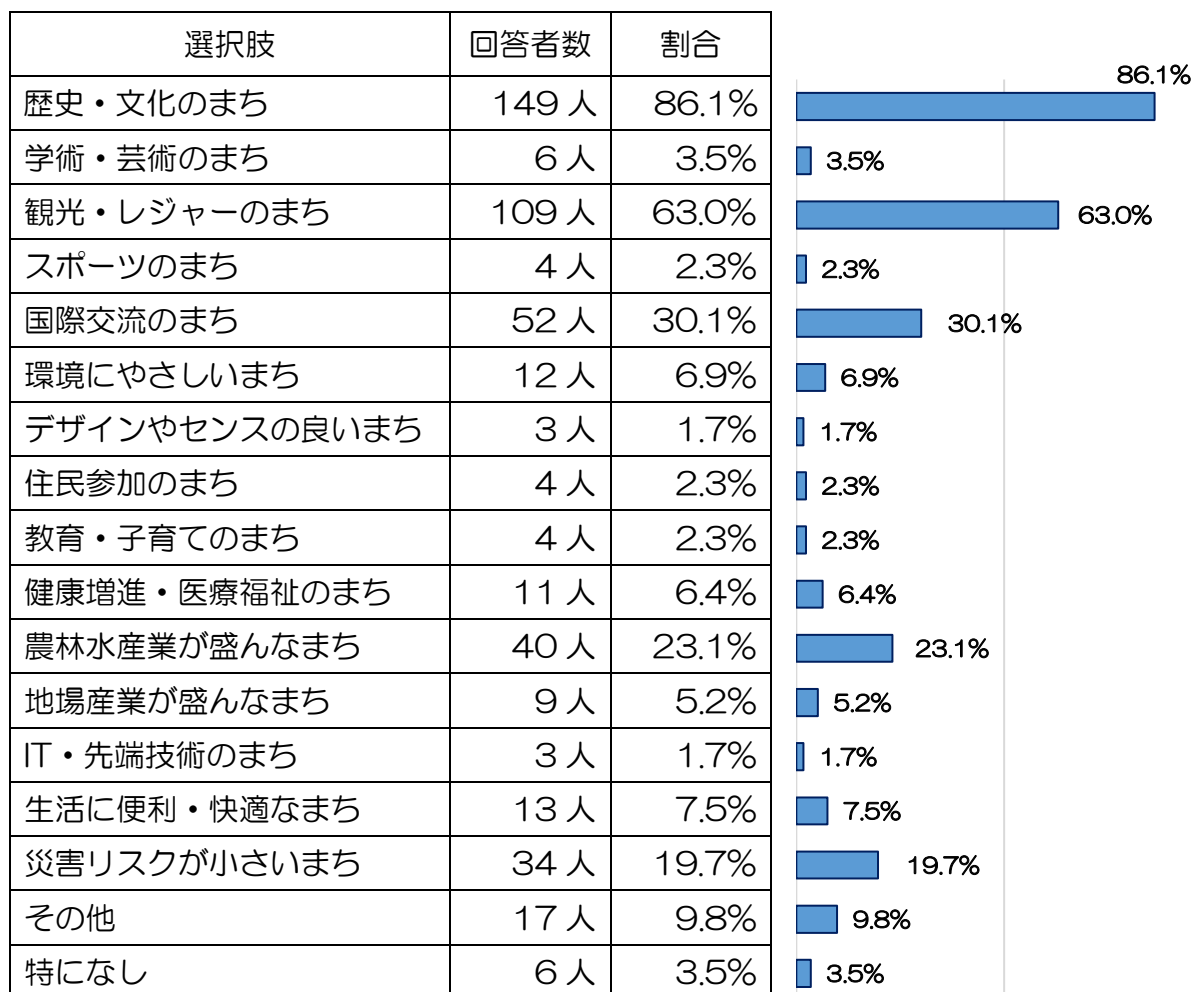
〈年齢別割合〉

（単位：％）



「必要性がないから」が約79%と大部分を占めました。市役所が発信する情報には、くらしに密着した情報や安全・安心に関わる情報など知っていただきたい情報がありますので、興味・関心を持っていただけるような情報の編集や発信方法の改善などにつとめていく必要があります。

問 13 あなたは長崎市に対して、どのようなまちのイメージを持っていますか。
 (複数回答可)



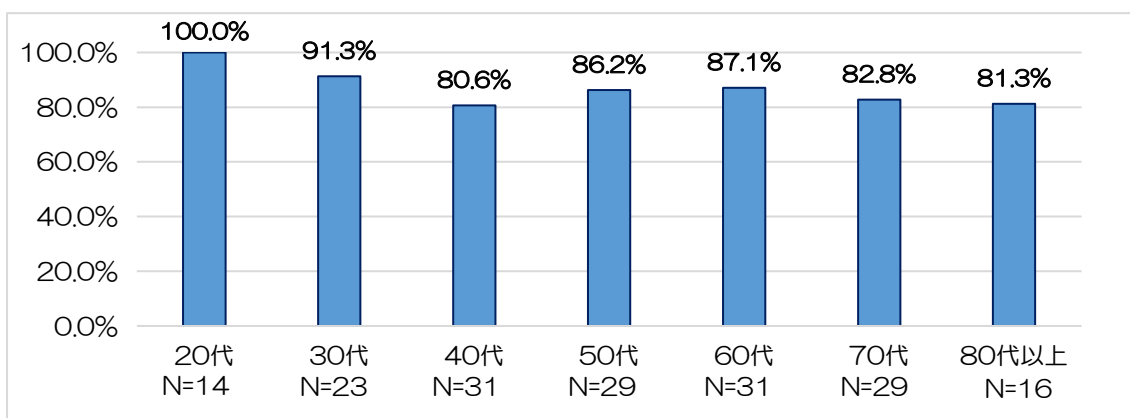
(回答者数：173人 有効回答数：476 無回答：7人)

※「その他」の意見

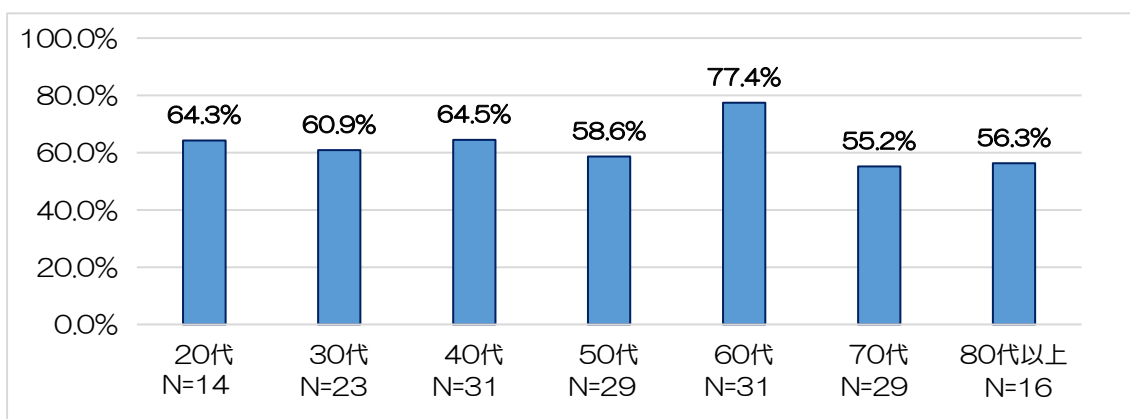
- 食べ物がおいしいまち
- おもてなしの心のまち
- 原爆のまち
- 人口流出の著しいまち
- 県庁所在地に県立図書館がないまち
- マンションが乱立し空が狭いまち
- 高齢者の多いまち
- 坂道が多く住みにくいまち
- 交通機関の利便性が悪い。特に郊外
- 何もないところ、土地も高いし賃金も安い。住みにくいまち
- 生活保護（低所得者）が多い
- 保守的で昔のことにこだわりすぎる など

【年齢別割合】※割合が高かった5つを抜粋

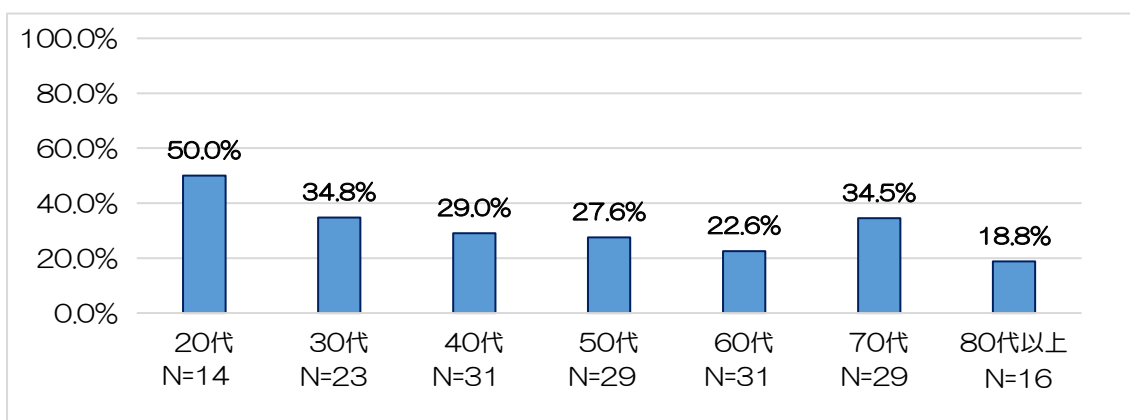
○「歴史・文化のまち」149人



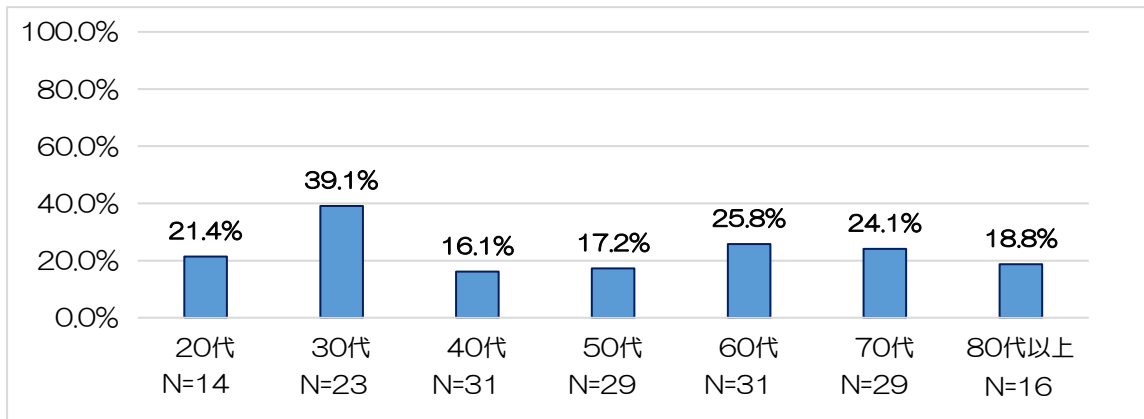
○「観光・レジャーのまち」109人



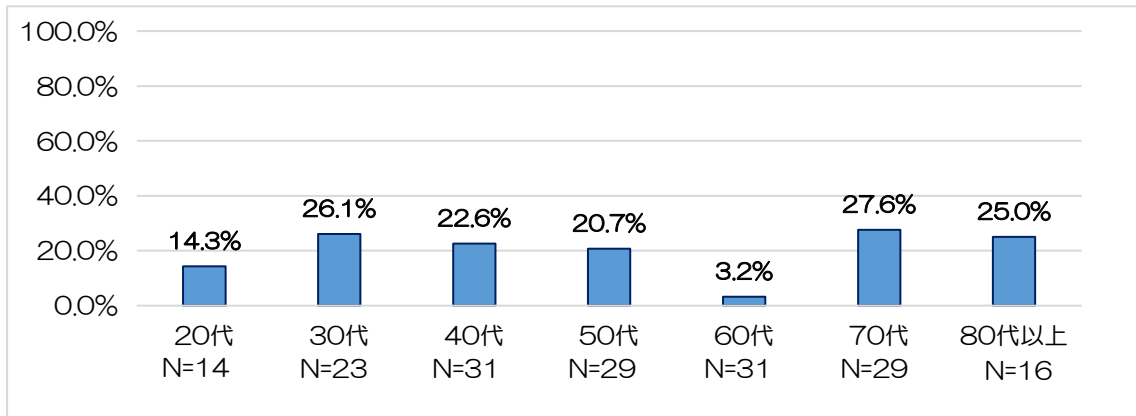
○「国際交流のまち」52人



○「農林水産業が盛んなまち」40人



○「災害リスクが小さいまち」34人



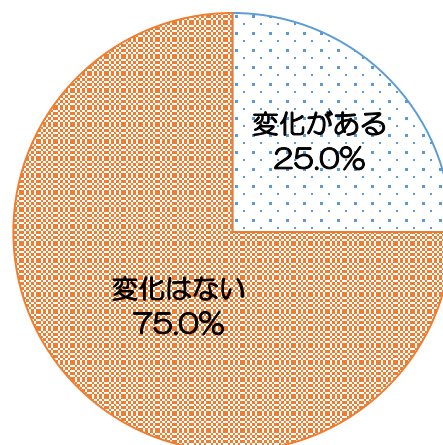
市民が抱えている「長崎市に対するイメージ」については、「歴史・文化のまち」（約86%）、「観光・レジャーのまち」（約63%）、「国際交流のまち」（約30%）、「農林水産業が盛んなまち」（約23%）、「災害リスクが小さいまち」（約20%）が上位となり、特に「歴史・文化のまち」「観光・レジャーのまち」の割合が高くなっています。

上位5つを年齢別で見ると、「歴史・文化のまち」は20代の全員がイメージを持っているなど、各年代で高い割合となっています。また、「観光・レジャーのまち」は60代、「国際交流のまち」は20代、「農林水産業が盛んなまち」は30代、「災害リスクが小さいまち」は70代以上の世代が最も高くなりました。

問 14 長崎市に対するあなたのイメージについて、この1年間に変化がありましたか。(当てはまるもの1つ回答)

選択肢	回答者数	割合
変化がある	43人	25.0%
変化はない	129人	75.0%
合計	172人	100.0%

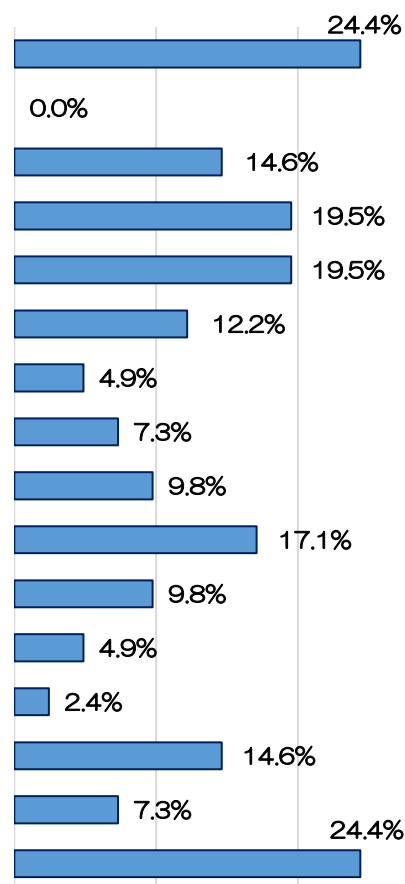
(無回答：8人)



問 15 問 14 で「1.変化がある」と回答した方にお尋ねします。

新たに長崎市に対して、持つこととなったイメージはどのようなものですか。(複数回答可)

選択肢	回答者数	割合
歴史・文化のまち	10人	24.4%
学術・芸術のまち	0人	0.0%
観光・レジャーのまち	6人	14.6%
スポーツのまち	8人	19.5%
国際交流のまち	8人	19.5%
環境にやさしいまち	5人	12.2%
デザインやセンスの良いまち	2人	4.9%
住民参加のまち	3人	7.3%
教育・子育てのまち	4人	9.8%
健康増進・医療福祉のまち	7人	17.1%
農林水産業が盛んなまち	4人	9.8%
地場産業が盛んなまち	2人	4.9%
IT・先端技術のまち	1人	2.4%
生活に便利・快適なまち	6人	14.6%
災害リスクが小さいまち	3人	7.3%
その他	10人	24.4%



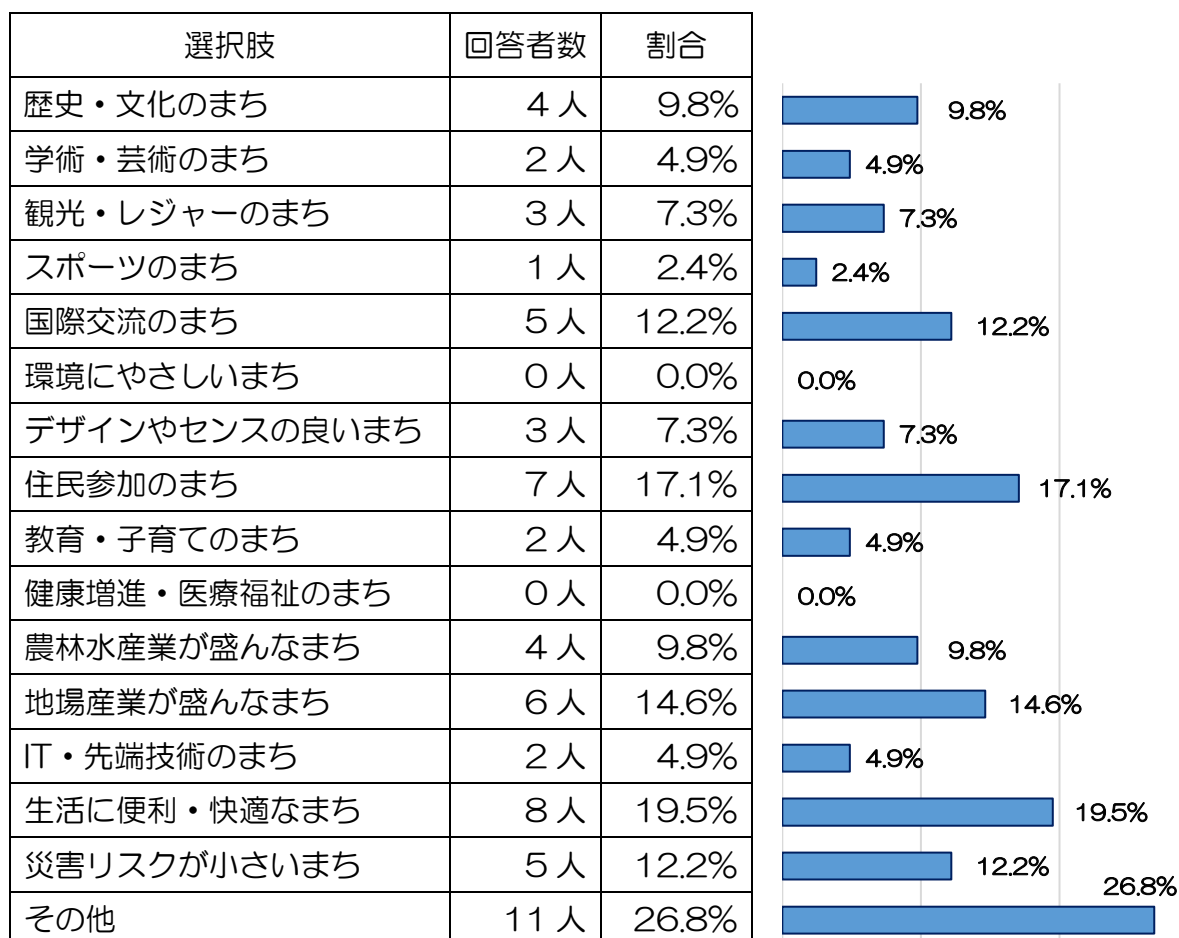
(回答者数：41人 有効回答数：79 無回答：2人)

※「その他」の意見

- 長崎駅周辺の再開発、人口流出、新大工町の再開発
- 駅周辺のイメージが変わった。
- 公共交通機関の変化、新幹線他
- 箱物作りすぎ。
- 県庁・市役所・マイルス・長崎駅等大型の建築物が複数建設されているが、採算はとれるのか。
- 空き地があればすぐにマンションが建つまち、空き家の多いまち。
- コロナ禍で市民の堅実さ、医療従事者を市民一人一人が助けることができているのではないか。
- コロナ感染リスクが小さい。
- コロナ感染者が少ない。 など

問 16 問 14 で「1.変化がある」と回答した方にお尋ねします。

以前長崎市に対して持っていたものの、なくなったイメージはどのようなものですか。(複数回答可)



(回答者数：41人 有効回答数：63 無回答：2人)

※「その他」の意見

- なくなったイメージはない。
- デジタル社会への遅れ、核になる組織がない。(大学、県、市とも)
- 犬の散歩をされる方のマナーがほしい、個人で努力してきれいにしても限界がある。
- 漠然としたものなのではっきりと言えない。 など

【イメージを持つかたの増減】

選択肢	イメージを新たに持った	イメージがなくなった	増減
歴史・文化のまち	10人	4人	+6人
学術・芸術のまち	0人	2人	▲2人
観光・レジャーのまち	6人	3人	+3人
スポーツのまち	8人	1人	+7人
国際交流のまち	8人	5人	+3人
環境にやさしいまち	5人	0人	+5人
デザインやセンスの良いまち	2人	3人	▲1人
住民参加のまち	3人	7人	▲4人
教育・子育てのまち	4人	2人	+2人
健康増進・医療福祉のまち	7人	0人	+7人
農林水産業が盛んなまち	4人	4人	±0人
地場産業が盛んなまち	2人	6人	▲4人
IT・先端技術のまち	1人	2人	▲1人
生活に便利・快適なまち	6人	8人	▲2人
災害リスクが小さいまち	3人	5人	▲2人

約25%のかたが「変化がある」と回答しました。

このうち、新たにイメージを持ったかたが増えた項目（「変化がある」と答えたかたのうち、「新たにイメージを持った」かたと、「イメージがなくなった」かたの差）は、「スポーツのまち」「健康増進・医療福祉のまち」が7人の増、「歴史・文化のまち」が6人の増、「環境にやさしいまち」が5人の増となり、増加した項目の上位となっています。

一方で、「住民参加のまち」「地場産業が盛んなまち」は4人の減となり、イメージがなくなった項目の上位となりました。

問 17 問 14 で「1.変化がある」と回答した方にお尋ねします。
変化した理由やきっかけがあれば教えてください。

【暮らしに関すること】

- 新型コロナウイルスで皆が心配している中でも観光に来てほしい等の発言があったり、情報が無さすぎて安心して暮らせる町ではないとのかなと感じた。
- 毎朝、夕方の渋滞がひどくて生活が快適とは言えない。
- 交通に関して、新しい駅が開設し利用しやすい。活気のある長崎市を希望する。
- 忘れ物をした時でもすぐ購入する場所がある。
- コロナ禍で都会での生活と比べた時に周りの自然に癒され、快適だと改めて感じた。
- 農林水産業に関する広報「食べてみんな長崎」の旗やステッカー等を見たり、スーパーに地元産の食材が多く並んでいるのを見て、観光だけでなく、地産地消にも力を入れている街だと考えが変わった。逆に交通機関やスーパーなど、坂道の街であるからこそ、発展しているのかと思っていたが、それらは中心街や、住民の多い地域のみであり、運転免許を所持していない私にとっては不便であり、目的地まで遠回りをして行くということが多々あった。そのため、便利なまちであると考えていた中心街に住んでいた時から郊外に引っ越すと不便であるなど考えるようになり、結局職場から遠くなったが、中心地にもう一度引っ越した。
- nimoca カードがバスで使えるようになったこと。

【まちづくりに関すること】

- 稲佐山、ジャパネットHD、新幹線
- JR 線高架による踏切の廃止
- 出島があり昔から海外から文化・芸術などさまざまな物が入ってきたという文化はあるが、今の長崎はそういうものを誇れるような雰囲気、機運があまりないと思う。ソフト面をしっかりしないとまずいと思う。
- 長崎駅のリニューアルや新幹線の工事が進んできたこと。
- マンションが増えてきたこと。
- マンションが多く立ち並び、料亭がなくなり、寂しい街になったが、これが変化があるまちかなあ！と思う此の頃。
- 長崎駅西側でマイス施設工事が着々と進んでいる「出島メッセ」。
- 住民の意見、思いが伝わっていないと強く感じることが多い。
- 長崎駅周辺環境が大きく変わり都会化した。
 - 1.長崎駅、県庁、市庁舎、警察署などの移転
 - 2.新大工玉屋跡地などの再開発

3.マンションの乱立。高台居住者のマンションへの転居

※人口流出問題の解決には箱物ではなく、新たな起業とその支援政策が必要。
上場企業を誘致し、法人市民税、固定資産税を減免し、雇用創出の変化が欲しい。

【観光・レジャーに関すること】

- コロナの影響で感じた。観光・レジャーのまちでなくなった。
- コロナによる海外旅行者の減少。クルーズ船の入港がなくなった。

【食に関すること】

- 食に関して「おいしい、安全」だと感じた。

【歴史・文化に関すること】

- 旧県庁跡地の遺跡発掘により長崎は観光以外の歴史、文化、国際交流のまちであったことを再確認した。

【産業に関すること】

- IT 企業参入がある。
- 長崎市の主要産業である造船業の落ち込み、企業再編などで中央集約が進み、人口流出に拍車をかけている。
- SNS 等で長崎県産品を見る機会が増えた。

【福祉に関すること】

- ボランティアとして「高齢者サロン活動」に参加している。きめ細かい施策で充実した内容であるように感じている。

【子育てに関すること】

- 子どもが生まれてよく支援センターを利用したり、公園や子どもが遊べる所を探したりしているので。
- 子どもが産まれて、子育てに力を入れているなと感じた。

【安全・安心に関すること】

- 大雨等で怖い思いをすることがあり、災害に対して不安を感じた。

【その他】

- 健康増進・医療福祉、農林水産業、地場産業にもっと予算をつけて欲しい。
- 一年前は中国武漢から発生した新型コロナウイルス…長崎港に停泊していたクルーズ船に対して、冷や冷やドキドキだったが、自衛隊の協力もあり感染を抑

え込み県民の安全安心は守られた。今は、県民性により、手洗い、うがい、マスクの着用が徹底されており、市内（県内）の消費活動に微力ながら努めていきたい。

- 変化がなかったとの理由の記入欄が必要だと思う。

など